

# 女子学生のエンカウンター・グループは参加者に どんな体験として認識されたか

The Experiences of Encounter Group Camp for Female students.

石田妙美, 梶岡多恵子\*, 大沢 功\*, 佐藤祐造\*

Taemi Ishida, Taeko Kazioka\*, Isao Ohsawa\* and Yuzo Sato\*

**要旨:** 女子学生を対象としたエンカウンター・グループ合宿は、参加者にどんな体験として認識されているか把握する目的で、エンカウンター・グループ合宿によって得られたもの、参加後の変化の有無およびその内容等について、郵送による調査を実施した。

対象は1991年から1999年に実施したエンカウンター・グループ合宿の参加者189名で回収率は43.3% (82名)であった。合宿で何かしら得られた者は77名 (93.9%)、自分自身が変わったと回答した者は50名 (61.0%)であった。自由記述には68名 (82.9%)が記入し、その内容は自己理解、休息や遊び、学び、出会い、心の栄養、自己表現、他者理解の場といった肯定的なものが大半を占めたが、最初は苦痛だった、疲れる等も若干認められた。

以上のことから、エンカウンター・グループの体験は、自己理解、自然な自己表現、他者理解、他者援助、レクリエーション、人との関わりを楽しむ、個人の心理的成長を確認する、学習等の場であると認識されていた。

本研究では女性のみの特徴を得ることはできなかったが、今後は調査内容、方法を改善し、女性グループとしての特徴を検討するとともに養護教諭養成教育としてのエンカウンター・グループの意義についても検討してゆきたい。

## 【緒 言】

心理的治療、教育(訓練)、心理的成長を目的とするグループ・アプローチのひとつであるエンカウンター・グループは、主に健康な普通の人たちの心理的成長や、人間関係の訓練などのために用いられる<sup>1)</sup>。従来より大学で実施されているエンカウンター・グループには継続型と合宿型があり<sup>2)</sup>、本学では継続型として養護教諭コースの学生が中心となっているエンカウ

---

\* 名古屋大学総合保健体育科学センター

ター部（当初は同好会）がウィークリー・エンカウンター・グループ活動を行っており、合宿型としては1991年からエンカウンター・グループ合宿を開催している。このエンカウンター・グループ合宿は、開始当初は自由参加であったが、その後カリキュラム整備を行い、現在では2泊3日の合宿参加により人間関係コースの臨床心理系科目として単位取得が可能となっている。

さてエンカウンター・グループ合宿では、どのような体験したかを把握するために毎回参加者に感想文を書かせている。すでに筆者らはこの感想文からエンカウンター・グループ合宿のグループ内容（構成的とベーシック）の体験について記述式体験過程尺度を用いた比較検討を行ったが、グループ間に差は認められなかった<sup>3)4)</sup>。またエンカウンター・グループ体験後の個人の変化についての追跡調査は、畠瀬<sup>5)6)</sup>、平山<sup>7)</sup>らが実施しているが、女子学生のみ研究はあまり報告されていない。

そこで筆者らは、本学で実施した10年間の女子学生を対象としたエンカウンター・グループ合宿が、参加者にどのような体験として認識され、どんな心理的变化をもたらしたかについて調査を実施した。

#### 【エンカウンター・グループ合宿の概要】

表1に示すように、本学では1991年より学生および卒業生を対象としたエンカウンター・グループ合宿を実施してきた。第1回、3回、5回、7回、10回はエンカウンター部主催で、第

表-1 エンカウンター・グループ合宿参加者数

回	開催期間	学年別			コース別			計	ファシリテーター		内容
		1年生	2年生	3年生	養護	人間	その他		男	女	
1	1991.9.20~9.22*	2	6	0	5	3	0	8	1	1	B-1
2	1992.9.19~9.21	13	9	0	0	20	2	22	2	1	B-2
3	1993.3.20~3.22*	25	0	0	9	13	3	25	1	1	S-1
4	1993.9.13~9.15	9	16	3	3	21	4	28	2	2	B-1, S-1
5	1994.3.20~3.21*	10	7	0	12	5	0	17	0	1	S-1
6	1994.8.29~8.31	8	15	10	9	20	4	33	2	2	B-2, S-1
7	1995.3.20~3.21*	6	5	3	10	4	0	14	1	1	B-1
8	1995.7.29~7.31	1	18	6	5	15	5	25	2	2	B-3
9	1996.8.23~8.25	3	16	11	13	13	4	30	2	2	S-2, B-1
10	1997.3.9~3.10*	5	2	2	3	2	4	9	1	1	B-1
11	1997.7.31~8.2	3	11	9	10	11	2	23	1	3	B-4
12	1998.8.18~8.20	13	20	14	20	21	6	47	2	2	B-4
13	1999.8.1~8.3	13	8	12	20	9	4	33	2	2	B-4
計 (述べ人数)		111	133	70	119	157	38	314	19	21	

\*エンカウンター部主催

S:構成的, B:ベーシック, 数字:グループ数

2回以降の\*のない回では、参加すれば人間関係コース2年次の演習単位に認定された。

開催の約2か月前に学内掲示板と学生相談室前に募集要項(資料1)を掲示し、参加者を募集した。また人間関係コースや養護教諭コースでは講義中に教員から紹介した。

合宿の日程は資料1に示すとおりである。セッション1では、オリエンテーションとして、ファシリテーターを含めた参加者全員が集いファシリテーターやメンバーの自己紹介をしながら、3日間自分が過ごすグループを参加者自身で決定する。参加メンバーの主体性に任せているので2時間程度で決まることもあれば、セッション2まで使用した時もあった。通常セッション2からセッション6まではグループセッションであるが、1994年の第6回からは2日目のセッション4または5を屋外セッションやインタレスト・グループとし、最近ではセッションのグループにこだわらずメンバーが自由に選択できるようにしている。2泊とも夜10時半以降はオープンスペースの番外セッションを設けている。3日目の全体会では、再び参加者が一同に集い、アンケートを使用して合宿の感想を書き、各ファシリテーターから合宿の所感や合宿終了に際しての諸注意があった後に解散となる。

各回の参加者数、ファシリテーター数、グループの内容は表に示したとおりである。参加者は日頃お互いに講義や部活動等で顔を合わせる事が多い日常性を含んだエンカウンター・グループであることから、あまり自己を表出しすぎないように留意し、合宿型エンカウンター・グループではあるが継続型エンカウンター・グループの機能である『対人関係の場』(友だち作りや対人関係練習の場)、『自己理解や自己確立を助ける場』『安息の場』<sup>2)</sup>になるよう心がけている。

## 【方法】

対象は1991年から1999年に実施したエンカウンター・グループ合宿の参加者延べ314名の内、実人数である本学学生15名、卒業生174名、計189名である。

2000年6月、エンカウンター・グループ合宿の参加状況、エンカウンター・グループ合宿参加経験によって得られたもの、参加後の変化の有無およびその内容等に関する調査(資料2)を郵送で実施した。回収率は43.3%(学生12名・80.0%、卒業生70名・40.2%)であった。

調査結果の処理はSPSS10.Jを使用し、在籍時のコース別に比較検討した。また参加回数が4回以上の群、最終参加から調査までの経過年数が5年以上の群についても検討を加えた。統計学的検定はt検定、 $\chi^2$ 検定で行い、有意水準は危険率を5%とした。また有意差の認められた項目は残差分析を行い、調整化残差の絶対値の2以上を特徴的なものとした。

## 【結果】

### 1. 対象者全体のエンカウンター・グループ経験の認識

対象者の年齢、エンカウンター・グループ合宿参加回数、最終参加から調査までの経過年数、

在学時の在籍コース、職業、エピソードは表2のとおりである。

エンカウンター・グループ合宿の参加動機は、学生時代の合宿では興味があった、友だちに誘われて、自分のため、単位取得のため、先生の勧めの順であった。卒業後の合宿に参加した24名の参加動機は、自分の心の中の整理がしたかった、ゆっくりしたかった、自分を見つめ直したかったが多かった。

エンカウンター・グループ合宿に参加して何かしら得られたと回答したものは77名(93.9%)、わからないものは5名(6.1%)であった。またエンカウンター・グループ合宿に参加して自分自身が何かしら変化したと思うと回答したものは50名(61.0%)、わからないもの21名(25.6%)、何も変わりはない8名(9.8%)であった。表3に示すようにエンカウンター・グループ合宿に参加して取得したことは、現在の自分を見つめること、今までの自分を振り返ること、人の話をきくこと、何も考えずゆっくりできた、沈黙(間)の意味に気づいた等が多かった。自分自身が変化したことでは、人の話をじっくりきけるようになった、余裕がもてるようになった、自分の気持ちを出せるようになった、束縛されたものから少し解放された気になった、人を大

表-2 対象者の特徴

	平均±標準偏差(最小, 最大)	在籍コース	n(%)	職業	n(%)	エピソード	n(%)
年齢	24±3 (19, 33)	養護教育	45 (54.9)	学生	17 (20.7)	本人の大病	13 (15.4)
経過年数	3.2±2.2 (1, 8)	人間関係	25 (30.5)	フルタイム	44 (53.7)	肉親の死	8 (9.8)
学生回数	1.4±20.9 (0, 4)	国文学科	8 (9.8)	パートタイム	10 (12.2)	肉親の大病	19 (23.2)
卒後回数	2.0±21.9 (1, 9)	英文学科	3 (3.7)	家事手伝い	3 (3.7)	進学	12 (14.6)
参加回数	2.0±1.7 (1, 11)	その他	1 (1.2)	主婦	6 (7.3)	転職	19 (23.2)
SEG回数	1.4±0.7 (1, 3)			無職	2 (2.4)	結婚	16 (17.5)
BEG回数	1.6±1.4 (1, 10)					出産	6 (7.3)

表-3 エンカウンター・グループ合宿に参加して得られたこと・自分の変化

	1位	n(%)	2位	n(%)	3位	n(%)	無回答
取得							
1番目	自分見つめる	19 (23.2)	自分振り返る	10 (12.2)	人の話をきく	9 (11.0)	1 (1.2)
2番目	人の話をきく	14 (17.1)	自分見つめる	10 (12.2)	自分振り返る	8 (9.8)	1 (1.2)
3番目	ゆっくりする	7 (8.5)	沈黙の意味	7 (8.5)	人の話をきく	6 (7.3)	9 (11.0)
変化							
1番目	じっくりきける	14 (17.1)	余裕がもてる	10 (12.2)	開放された	8 (9.8)	18 (22.0)
2番目	じっくりきける	11 (13.4)	余裕がもてる	8 (9.8)	人を大切にする	7 (8.5)	23 (28.0)
3番目	気持ちを出す	13 (15.9)	開放された	9 (11.0)	人を大切にする	6 (7.3)	28 (34.1)

切にすることができるようになった等が多く見られた。

「あなたにとってエンカウンター・グループはどんな存在ですか」の自由記述には68名(82.9%)のものが記入した。その内容は肯定的なものが大半を占めたが、最初は苦痛だった、疲れるところ、何も覚えていない、自分を見つめるつもりで参加すれば良かったと否定的なものも若干認められた。主な内容は、自分と向き合う、新しい自分に気づく等『自己理解の場』(25名)が最も多く、ついで現実から少し離れる、息抜き、小旅行、楽しい、ほっとできる、のんびりできる等『休息や遊びの場』(17名)であった。3位は人との関わり方を学ぶ、心について学ぶ、視野を広げる、職業に生かせる等『学びの場』(13名)、4位は本音で人とふれあう、自分とは考えの違う人と交流できる、仲間になれる等『出会いの場』(13名)であった。5位は元気になれる、充実感がある、こころの活性化等『心の栄養の場』(8名)と素直に自分を表現できる、本当の自分を少し出せる、自分の殻から出る等『自己表現の場』(8名)、7位は人の話をじっくり聞ける、他人の気持ちを大切にすること等『他者理解の場』(7名)であった。またわずかではあるが、自分の存在を肯定してくれた場所、今の自分に大きな影響を与えた、日常では味わえない、短大生活のすべてだった等の記述もみられた。

## 2. 在学時在籍コース別のエンカウンター・グループ経験の認識

在学時在籍コース別の結果を表4に示した。人間関係コースの者は養護教諭コースの者に比し年齢、最終参加からの経過年数が有意に高かった( $p < 0.05$ ,  $p < 0.01$ )。また養護教諭コースの者は人間関係コースの者に比し、本人が長期の入院や手術などの大きな病気を体験している者が有意に( $p < 0.05$ )多く、英文や国文等その他のコースのものは養護教諭と人間関係のものに比し肉親の死を経験している者が有意に( $p < 0.05$ )多かった。

エンカウンター・グループ合宿に参加して取得したことについて対象者全体では上位になかった項目は、養護教諭コースは先輩・後輩に出会えた、つらさを得たで、人間関係コースでは、不明だが何かしら得られた、沈黙の意味に気づいた、その他のコースはいろいろな友だちと知り合えた、緊張せず居心地良くすごせた、その時抱いていた悩みを話せた、自分から人に話かけることができたであった。また自分自身が変わったと思うことについて対象者全体の上位になかった項目は、養護教諭コースは自分の良いところを認めるようになった、自分が成長していることを実感できるようになった、人間関係コースは自分が成長していることを実感できるようになった、困難にぶつかった時人に相談できるようになった、その他のコースは自分の良いところを認めるようになった、自分の気持ちを出せるようになった、自分を偽って他人と接することが少なくなったであった。

学生時代のエンカウンター・グループ合宿の参加動機は、養護教諭コースの者は興味があったが最も多くついで友人に誘われたであった。人間関係コースの者は同じく興味があったが最も多くついで単位取得のため、他のコースの者は興味があったと先生に勧められたが多かった。

表一 4 在学時の在籍コース別対象者の特徴

		平均±標準偏差, 人数(%)		
		養護教諭 n=45	人間関係 n=25	その他 n=12
平均年齢	歳	23±4 *	25±2	25±3
平均経過年数	年	2.3±1.6 ***	4.5±2.3	* 4.0±2.2
平均参加回数	回	1.8±1.3	2.1±2.5	2.2±1.3
学 生		13 (28.9)	2 ( 8.0)	2 (16.7)
フルタイム		25 (55.6)	14 (56.0)	5 (41.7)
パートタイム		5 (11.1)	4 (16.0)	1 ( 8.3)
家事手伝い		0 ( 0.0)	1 ( 4.0)	2 (16.7)
主 婦		2 ( 4.4)	3 (12.0)	1 ( 8.3)
無 職		0 ( 0.0)	1 ( 4.0)	1 ( 8.3)
本人の大病		10 (28.9) *	1 ( 4.0)	2 (16.7)
肉親の死		2 ( 4.4) **	2 ( 8.0) *	4 (33.3)
肉親の大病		9 (20.0)	5 (20.0)	5 (41.7)
進 学		6 (13.3)	4 (16.0)	2 (16.7)
転 職		10 (22.2)	5 (20.0)	4 (33.3)
結 婚		8 (17.8)	6 (24.0)	2 (16.7)
出 産		3 ( 6.7)	2 ( 8.0)	1 ( 8.3)

\* &lt;0.05, \*\* &lt;0.01, \*\*\* &lt;0.001

卒業後のエンカウンター・グループ合宿の参加は、養護教諭コース33.3%、人間関係コース20.0%、その他のコース33.3%であった。

短大で主催するエンカウンター・グループ合宿に今後の参加希望については、各コースとも日程があれば参加したいと回答した者が多かったが、その比率は養護教諭コース77.5%、人間関係コース44.0%、その他のコース66.7%であった。

### 3. 参加経験の多い群

エンカウンター・グループ合宿に4回以上参加した者は11名（養護6名、人間3名、国文2名）であった。エンカウンター・グループ合宿に参加して取得したものと100%回答し、その内容は、自分自身を振り返ることができた、人の話を聞くことができたの他、友だちができた、これからの自分の生き方について考えることができた、人と共にいることがしんどかったがみられた。また自分自身の変化では、自分の良いところを認めるようになった、自分が成長していることを実感できるようになったが上位であった。

エピソードとして、肉親が病気である者が6名(54.5%)、転職した者が5名(45.5%)と、参加回数1回の者(7名・14.0%, 9名・18.0%)に比し有意に( $p < 0.05$ )多かった。

#### 4. 最終参加から調査までの経過年数が5年以上の群

経過年数が5年以上のものは22名(養護5, 人間12, 英文3, 国文2)であった。エンカウンター・グループ合宿に参加して取得したのがあると86.4%が回答したが、何が得られたかわからないが何かは得た、いろいろな友だちと知り合えたが多かった。

#### 【考察】

本研究ではエンカウンター・グループの参加経験が参加者にどんな体験として認識されているかを把握し、在学時の在籍コース別、4回以上の参加者について検討した。

対象者全体の自由記述から、エンカウンター・グループは参加者自身にとって自己理解、休息や遊び、学び、出会い、心の栄養、自己表現、他者理解の場として認識されていた。これらは山田<sup>8)</sup>の個人の体験報告や小柳<sup>12)</sup>の報告に類似していた。このうち自己理解、出会い、自己表現、他者理解は、平山<sup>7)</sup>の言うエンカウンター・グループ期間中の個人過程因子である「自己理解」、「出会い欲求」、「自然な自己表現」、「他者理解」に対応していると考えられる。また休息や遊び、学び、心の栄養は小柳<sup>9)</sup>が指摘するエンカウンター・グループ機能の社会的居間の機能やリクリエーションとしての機能に対応する。

ひとりでゆったりとした無為を過ごすことにより、活力が出、また多くの学びをもたらす。筆者らはまずゆったりと過ごすことがエンカウンター・グループの重要な基盤となっていると考えている。そこで日程にゆとりをもち、なるべく参加者ひとりひとりが自由にのびのびと動けるよう、規制は最低限にしている。またファシリテーターとしての援助はセッション中だけでなく、食事や自由時間を含めた合宿全体であると考えている。つまり安心できる快適な雰囲気の中でこそ自分を見つめ、元気や勇気が出たら自分を表現し、メンバーから様々な反応を受け、また自分について確認しながら人との出会いを楽しむことができるのである。

初めは苦痛、終わると疲れる、自分を見つめるつもりで参加すれば良かった等否定的な記述はすべて卒業後に初めてエンカウンター・グループ合宿に参加した者によるものであった。在学生には合宿前にエンカウンター・グループについて若干説明するが、卒業生は当日のセッション1での説明しか受けられないため、村山・野島のグループ・プロセス発展段階<sup>10)</sup>のうち、段階Ⅰ 当惑・模索、段階Ⅱ グループの目的・同一性の模索あたりで参加者が停滞してしまったか、あるいはグループが段階Ⅳ 相互信頼の発展まで進行せず、段階Ⅰ 当惑・模索、段階Ⅱ グループの目的・同一性の模索、段階Ⅲ 否定的感情の表明あたりで終わってしまったか、もしくは段階Ⅰ からⅢ の記憶が強く残っているかに起因すると推察される。このような卒業後にエンカウンター・グループ合宿に参加した者の参加動機としては、心の中の整理、ゆっくりしたい、

自分の見つめ直し等が多かったが、これは合宿が忙しい日常から離れるきっかけとなり、自分自身をとりもどす場になっていると思われる。

養護教諭コースの者では、本人が大病した経験が他に比し多かったが、このコースに入学する学生は自分や家族の通院経験から本コースを希望する者が多いことによると思われる。自由記述でエンカウンター・グループ合宿を学びの場であると記述した者は、養護教諭コースが78.6%を占めた。これは養護教諭に望まれる資質としてカウンセリング能力<sup>11)</sup>あり、講義以外でもカウンセリングについて学びたい者がエンカウンター部や合宿に参加するからではないかと考えられる。

人間関係コースの者では、エンカウンター・グループ合宿で何が得られたかわからないが何かは得たと回答した者が多く認められた。これは単位のため参加した学生が24%を占めており、また最終参加から調査までの経過年数が養護教諭コースの2倍弱であることにも起因すると考えられる。

その他のコースの者では、エンカウンター部員も若干いるが大半は学生相談室や保健室をよく利用しており、精神的健康レベルが低い学生である。また33.3%の者が肉親の死を経験していた。エンカウンター・グループ合宿で友だちと知り合えた、緊張せず居心地良くすごせた、悩みを話せた、自分から人に話かけることができたという体験を得ることによって、自分の良いところを認めるようになった、自分の気持ちを出せるようになった、自分を偽って他人と接することが少なくなったという自分自身の変化があったと認識していた。これはエンカウンター・グループ合宿が心理的治療の補助や対人関係の練習の場としての機能を果たしたからだと考えられる。

以上のことから女子学生においては、エンカウンター・グループの体験は、自己理解、自然な自己表現、他者理解、他者援助、休息や遊び(レクリエーション)、人との関わりを楽しむ、個人の心理的成長を確認する、学習等の場であると認識されており、参加者が参加前に望んでいた内容や、著者らが参加者に獲得して欲しいと思っていたことが体験できたようである。つまり本研究の対象となったエンカウンター・グループ合宿は、エンカウンター・グループとしての機能を果たしていたと推察された。しかし調査表の回収率や最終参加のエンカウンター・グループ合宿から調査日までの経過期間が一定ではないことから、本研究の信頼性に問題があることを否定できない。

本研究では女性だけのグループの特徴を得ることはできなかった。女性ゆえに転居先不明者も少なくないが、今後は追跡調査の時期や内容、方法を改善し、女性グループとしての特徴を把握したい。また、養護教諭養成教育としてのエンカウンター・グループの意義についても検討してゆきたい。



## 参考文献

- 1) 野島一彦：グループ・アプローチへの招待．現代のエスプリ．385．5-13, 1999
- 2) 岩村 聡：大学におけるグループ・アプローチ．現代のエスプリ．385．5-13, 1999
- 3) 村久保雅孝, 石田妙美：2つのエンカウンター・グループにおける体験過程様式の比較検討(1)-構成法と非構成法について構成法を担当した者から-．日本学生相談学会第13回プログラム・論文集．82-83, 1995
- 4) 石田妙美, 村久保雅孝, :2つのエンカウンター・グループにおける体験過程様式の比較検討(2)-構成法と非構成法について非構成法を担当した者から-．日本学生相談学会第13回プログラム・論文集．84-85, 1995
- 5) 島瀬 稔：エンカウンター・グループ・ワークショップの実施と参加者体験の追跡調査．エンカウンター・グループと心理的成長．84-99, 創元社, 1990
- 6) 島瀬 稔：エンカウンター・グループ経験が多数回参加者に及ぼす影響．エンカウンター・グループと心理的成長．102-120, 創元社, 1990
- 7) 平山栄二：エンカウンター・グループ参加者の個人過程と心理的成長との関係に関する研究．エンカウンター・グループと個人の心理的成長過程．47-77, 風間書房, 1998
- 8) 山田俊介：大学生にとってのエンカウンター・グループ経験-EGにひかれていった私の経験から-．ENCOUNTER出合いの広場．10, 19-23, 1990
- 9) 小柳晴生：エンカウンター・グループの現代的意義．現代のエスプリ．385．187-195, 1999
- 10) 安部恒久：ベーシック・エンカウンター・グループ．現代のエスプリ．385．41-50, 1999
- 11) 三木とみ子：養護教諭に必要な能力．養護概説．28-46, ぎょうせい, 1999
- 12) 小柳晴生, 村久保雅孝, 村上昭史, 池田佳世：教養教育として実施したエンカウンター・グループ．平成11年度教養特別講義プログラム推進経費報告書．2000

## 資料1

## 第12回 エンカウンター・グループ合宿

エンカウンターとは、「出会い」を意味します。日常生活から離れたゆったりとした雰囲気の中で、自発的に話したいこと、思っていること、感想などを話したい時に話します。

一人一人が他人と比べたり、自分をふりかえったりする中で今まで気づかなかった自己と出会い、他者と出会うことができるのです。2泊3日、家や学校、アルバイトなどの生活から少し離れて『こころの旅』をしてみませんか？

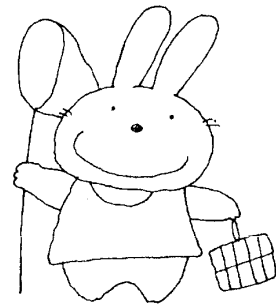
期 間：1999年8月1日(日)～8月3日(火)

会 場：すずむし荘

(天然ラドン馬羅尾天狗岩温泉)

〒399-8501 長野県北安曇野郡松川村3363-1082

TEL：0261-62-8500 FAX：0261-62-0220



ファシリテーター〈敬称略〉

木村 易 (愛知大学 教授)

森崎 康宣 (自立の家 わだち コンピュータハウス)

水戸部 賀津子 (東京国際大学)

石田 妙美 (東海学園女子短期大学 講師)

参加費：25,000円 (研修費 5,000円, 宿泊費・食費 20,000円)

定 員：先着40名

説明会：7月13日(火) 12:40～

2号館5F石田研究室隣の隣 2-23演習室

申 込：申込用紙に必要事項を記入の上、7月13日(火)の説明会以降7月22日(木)お昼までに参加費25,000円を添えて石田研究室までお申し込みください。

ご不明な点は石田に直接おたずねください。

携帯Tel 090-1284-4699



日 程 (案)

	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1 日 (日)									受 付	セッション①				夕 食	セッション②			
2 日 (月)			朝 食		セッション③			昼 食		セッション④				夕 食	セッション⑤			
3 日 (火)			朝 食		セッション⑥ 全体会			解 散				入浴時間 (PM3:00~AM8:00)						

キリトリ線

エンカウンター・グループ合宿参加申込書

学籍番号 \_\_\_\_\_ フリガナ  
氏名 \_\_\_\_\_ ( 才)

住 所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ ( )

グループ分けの希望

\_\_\_\_\_

合宿の参加動機, その他

\_\_\_\_\_

過去の参加経験 (一泊以上のグループ経験)

ない・ある ( 回)

## 資料2

このたびエンカウンターグループ合宿(E G合宿)をより充実させるために、E G合宿経験のある皆さまを対象に調査を実施することにいたしました。調査結果は統計的に処理し、プライバシーの保護には充分留意いたしますので、何卒御協力くださいますようお願いいたします。

1. あなたのE G合宿の経験は、学生時代を含めてどのくらいありますか？

学生時代 \_\_\_\_\_回 卒業後 \_\_\_\_\_回 計 \_\_\_\_\_回

2. あなたが参加したE G合宿では、構成的グループ・ベーシックグループそれぞれ何回でしたか？

\*構成的E Gは、エクセサイズをやりながら進める形式、ベーシックE Gは、自由に話す形式です。

1) 構成的E G合宿 \_\_\_\_\_回 2) ベーシックE G合宿 \_\_\_\_\_回

3. 今あらためてE G合宿に参加したことを振り返って、E G合宿で何か得られたものがありますか？番号に○をつけてください。

1) 何かしら得られたと思う 2) 得たものは何もない 3) わからない

4. あなたはE G合宿でどんなことが得られたと思いますか？ 最も当てはまるものから順に3つ番号を記入してください。

- 1) 友達ができた 2) 今までの自分を振り返ることができた  
 3) 現在の自分を見つめることができた 4) これからの自分の生き方について考えることができた  
 5) 親子関係について考えることができた 6) 友達関係について考えることができた  
 7) 同僚との関係について考えることができた 8) 沈黙(間)の意味に気がついた  
 9) 人と関わる時の距離について気づいた 10) 前回のE Gで自分との違いを発見した  
 11) 自分から人に話しかけることができた 12) 人と関わることの楽しさを体験した  
 13) 人の話をきくことができた 14) 自分の思いを表現することができた  
 15) 先輩・後輩に出会えた 16) 何も考えずゆっくりできた  
 17) いろいろな友だちと知り合うことができた 18) そのとき抱いていた悩みが話せた  
 19) そのとき抱いていた悩みの糸口が見えた 20) 緊張せず居心地良く過ごせた  
 21) 取り組んでみたい課題が見つかった 22) 何が得られたかわからないが何かは得た  
 23) つらさを得た(合宿は苦痛だった) 24) 人と共にいることがしんどかった  
 25) その他(具体的に) ( \_\_\_\_\_ )

1 番目 \_\_\_\_\_ 2 番目 \_\_\_\_\_ 3 番目 \_\_\_\_\_

5. E G合宿に参加して自分自身が変わったと思いますか？ 番号に○をつけてください。

1) 何かしら変化したと思う 2) 何も変わりはない 3) わからない

6. E G合宿に参加して自分自身変わったと思うのはどんなところですか？最もあてはまるものから順に3つ番号を記入して下さい。

- 1) 人を信じられるようになった 2) 人を信じてみようと思うようになった  
 3) 自分の良いところを認めるようになった 4) 余裕がもてるようになった  
 5) 自分が成長していることを実感できるようになった 6) 人を大切にすることができるようになった  
 7) 将来をみつめることができるようになった 8) 人の話をじっくりきけるようになった  
 9) 困難にぶつかったとき人に相談できるようになった 10) 自分の気持ちをだせるようになった  
 11) 束縛されていたものから少し開放された気になった  
 12) 自分を偽って他人と接することが少なくなった  
 13) その他(具体的に) ( \_\_\_\_\_ )

1 番目 \_\_\_\_\_ 2 番目 \_\_\_\_\_ 3 番目 \_\_\_\_\_

7. 学生時代に参加したEG合宿の主な参加動機は何ですか？ 該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 単位取得のため      2) 自分のため      3) 友達に誘われて      4) 先生の薦め  
5) 興味があったから      6) その他 ( \_\_\_\_\_ )

8. あなたは卒業後に実施したEG合宿に参加しましたか？ 番号に○をつけてください。

- 1) 卒業後のEG合宿に参加した      2) 卒業後はEG合宿に参加していない

9. 卒業後に実施したEG合宿に参加した主な動機は何ですか？ 最もあてはまるものから順に3つ番号を記入して下さい。

- 1) 自分の心の中を整理したかった      2) 先生に会いたかった      3) 先輩に会いたかった  
4) 後輩に会いたかった      5) 友だちに会いたかった      6) 自分を見つめ直したかった  
7) ゆっくりしたかった      8) 誘われて参加しようと思った      9) 人とふれあいたかった  
10) 本音で話がしたかった      11) 愚痴を聞いて欲しかった  
12) 仕事などでの自分の状況を理解して欲しかった  
13) その他 (具体的に) ( \_\_\_\_\_ )

1 番目 \_\_\_\_\_      2 番目 \_\_\_\_\_      3 番目 \_\_\_\_\_

10. あなたにとってEGはどんな存在ですか？ (自由に書いてください)

11. 短大等で主催するEG合宿に、今後参加してみたいと思いますか？

- 1) 日程があえば参加したい      2) 誘われれば参加したい      3) 参加するつもりはない

12. 以下の項目について、下線には数字を記入し、選択肢は○で囲んでください。

現在の年齢は？ \_\_\_\_\_ 歳      結婚は？ [未婚 ・ 既婚 ・ 離婚]

子どもは？ いる・いない      子どもの年齢は？ \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳

職業は？ [学生, フルタイム勤務, パート・アルバイト勤務, 家事手伝い, 専業主婦, 無職]

今までにあった出来事と当時のあなたの年齢は？

- 1) 肉親の死 \_\_\_\_\_ 歳      2) 結婚 \_\_\_\_\_ 歳      3) 離婚 \_\_\_\_\_ 歳  
4) 長期入院・手術などの大きな病気 (出産をのぞく) \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳  
5) 肉親の大きな病気 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳  
6) 短大卒後の進学 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳      7) 転職 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 歳

お名前 (旧姓) \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

アンケートは以上です。御協力ありがとうございました。